

震災・原発事故を伝える

2011.3.11 から 6 年 6 か月の今



浪江町棚塩地区から南相馬市小高区浦尻方面へ続く海岸林 林の中は秋・・・ミズヒキとキンミズヒキ

津波から免れた唯一の海岸林には、この地域の植生が現存している。

震災前、東北電力(株)の原発建設予定地だった。2011年3月建設撤回。

その後、浪江町・南相馬市に無償譲渡された。

県は、浪江町に無償譲渡された棚塩地区128haに町有地41haを加えた約169haの敷地に世界最大規模水素製造工場の建設を決定した。平成30年半ばまでに着工、東京五輪・パラリンピックが開催される32年の稼働を目指すという。9月6日、私たちの取材中、棚塩地区海岸林脇をボーリングしていた。

ここから少し南下した地に、「浪江・小高原発準備事務所」が当時のまま残っている。荒廃しているが6年6か月を経た今、皮肉にも、この地は「新エネルギー拠点」となる。

南相馬市ではこの新計画「水素発電所」隣接地である小高区浦尻地区一部の海岸林を、当分のあいだ防災林として残す。

この豊かな自然が、復興という開発の対象にならないことを願っている。

NPO法人福島環境カウンセラー協会 長澤 利枝

2017年9月30日作成

《震災 原発事故 6年6か月の今をお伝えします》

南相馬市・浪江町沿岸略図

防潮堤 ← 浜街道 ←
 防災林 ← 国道6号線 ←



1.津波で破壊された海岸沿い集落の復興

《その1》

2018年開催「全国植樹祭会場」となる、原町区雫地区沿岸の復興は急ピッチ。

集落内の道路拡張・防潮堤・防潮林そして浜街道の作業が進んでいく



式典会場 田圃だった跡地に造成



立ち入り禁止看板



盛土は同じ地区の里山を削る



《その2》

原町区小浜・小沢地区沿岸工事が遅れている。特に復興仮橋「常盤橋」建設は、津波で川底約20m抉られたため、基礎工事が難航している。

仮橋の完成によって、沿岸復興が加速される。防潮堤・防潮林・本橋建設・浜街道の嵩上げ完成は道遠し。



「常盤橋」仮橋建設 小沢地区側



小沢地区防潮堤コンクリート盤設置

《その3》 小高各地区の復興状況

- ☆ 塚原地区 防潮堤・防潮林・仮置き場(分別場等)は、順調に進展している。
津波を免れた数軒に住民が戻った。しかし多くの家屋は解体され跡地は雑草に覆われている。
壊滅した田圃の災害がれきの撤去が完了し、圃場整備を目指す。
- ☆ 小高区村上・角部内・蛭沢・井田川・浦尻地区の復興に差が出ている。特に角部内・蛭沢地区
防潮堤は、未だ工事着工に至っていない。工事作業員が減少し、進捗率が低下している。
この地域の防潮堤・防災林・浜街道が整備完了するのは、まだまだ先になる。



塚原地区防潮堤完成 外洋消波ブロック



津波被災家屋罹災調査済み表示版



高台にある津波から免れた家屋



蛭沢地区防潮堤嵩上げ工事



浦尻地区 草に覆われた津波屋敷跡地
前方防潮堤



中央の道路 先は行き止まり
原発道路建設予定地だった

《その4》 浪江町棚塩地区・請戸地区復興状況

浜街道を南下し、浪江町棚塩地区に入る。南相馬市小高区浦尻地区から続く、唯一津波から免れた海岸林がある。うつそうとした広大な林内に、豊かな植生を確認する。
浪江町のこの地域に水素製造工場建設が決まったことを、私たち住民は報道で初めて知った。自然と共生の理念は、はじめから考えられていない。
沿岸部請戸地区のみ復興工事は進み、内陸部は、「災害危険区域」の指定により、住民の居住は出来ない。



原発立地に立てられたままの看板



浪江小高原発準備事務所は当時のまま



棚塩地区浜街道脇ボーリング地質調査



L

浪江町棚塩地区の仮置き場



M

請戸地区災害がれき焼却場 手前防潮林着手



M

請戸橋脇の津波被災住宅 当時のまま



M

請戸浜街道を渡るイノシシ親子



N

この先帰還困難区域「双葉町」



N

双葉町両竹地区震災公園予定地

2. 原発事故による避難区域・避難生活 「6年6か月」の今

《その1》 除染と避難区域

「避難区域の見直し」によって解除が進み、避難区域面積は1/3になった。

原発周辺の12市町村に設定された避難区域の解除が進んだ。これまでに解除された市町村は、住民の帰還に向けた取り組みを実施している。しかし帰還率は、8月末現在で13%である。帰還を阻むのは第一に広大な面積の「除染廃棄物仮置き場」があり、さらに中間貯蔵施設への搬入は遅れ全体量の34.5%に過ぎないこと。住居がこのような光景の中にあること。

6年6か月に及ぶ避難生活が、他地域への定住を決心させている。



小高区 浪江町境 吉沢牧場
震災後も牛達とともに生活



牧草地除染中 廃棄物が積み上がる



除染済牧草地に約330頭放牧

震災と原発事故による避難者は、今年7月現在約5万6千人と6万人を下回り、ピーク時の1/3に減った。約6千人が未だに県内の仮設住宅での暮らしを余儀なくされている。長期間にわたる避難生活による「震災関連死」は、直接死を上回っている。8月31日現在 県内で2,168人の方が亡くなられた。心と体をケアする福祉の充実が早急の課題である。



浪江町立野地区除染田圃にコスモス
後方広大な「除染廃棄物仮置き場」

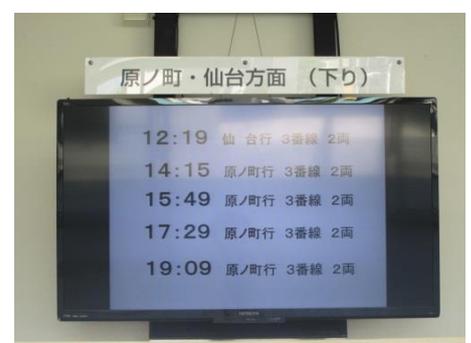


「常磐高速道」と並行する町道(右)
右は除染後の田圃



立野地区では未だに除染が続く

《その2》 浪江町の現況 8月末現在 人口18,132人 帰還住民360人。
浪江町は駅前広場・役場周辺は整備されたが、街中に入ると当時のままで荒廃が目立つ。
かつて十日市で賑わった商店街はひっそりとしている。商店街としての機能が再生される見通しが立たず、高齢化と後継者がいない現状では、生業に戻れる保証はない。数十年商店を営んできた住民が、諦めて家を壊す選択が続く。
郊外でも同じである。数軒の立派な屋敷を見た。リフォームして戻ると言うが確定ではないそうだ。
長引く避難生活によって、帰還するという選択がより難しくなっている。



常磐線浪江駅 跨線橋は完成 上り線未開通のため便宜的に仮通路で下りホームへ

下り方面列車 1日5本



浪江町役場 職員が戻り役所機能フル稼働



消防署改築 双葉郡拠点防災



浪江町駅前通り 人影はない



罹災調査済み 解体を待つ家屋
古い土蔵は傾き外壁剥落
崩れそうな家屋があちこちに
商店街の歩道は危険で歩けない

《その3》 富岡町の現況 5月末現在 人口13,441人 帰還住民128人

富岡駅周辺は、6か月の間にすっかり変容していた。海岸より内陸100m移動の駅舎がほぼ完成。駅前ロータリーは広く、商店区域にはホテル、マンションが建ち並び、少し離れた区画は、戸建の災害住宅団地になった。しかし、商店街としては未整備だ。駅から少し離れた国道6号線沿いのショッピングセンターが賑う。原発廃炉と、各種工事作業員が多く、宿舎の確保が優先される。高台の本岡地区は、公共機関の施設が並ぶ。役場・コミュニティセンターに加えて、「廃炉国際共同研究センター」が建設された。向かいには二次医療を担う「県立ふたば医療センター」(仮称)の建設工事が進んでいる。震災前の県関係機関も再開した。その後 帰還住民は次第に増えているという。



富岡駅舎 竜田へは10月中開通



駅前広場 乗り継ぎバス発着場



「とみおかホテル」オープン時から大盛況



医療センター前は「廃炉国際共同研究センター」 二次医療を担う「県立ふたば医療センター」(仮称)の建設現場
双葉郡の医療の中核に位置づけ

3. 「避難区域」の通行制限の解除・・・浜通りと中通りがつながった

「帰還困難区域」の114号国道浪江町津島から室原の約27kmが、9月20日、6年半ぶりに再開通した。県道原町浪江線約200mも通行になった。

相双地域と中通りへの通行は迂回以外なかったが、開通により途絶えていた交流が可能になった。

9月22日、原浪トンネルを抜け、左折して114号国道浪江町へと走行した。

県道35号線浪江町室原地区から双葉方面は「立ち入り禁止 許可証車両のみ通行可」。

まっすぐ浪江町に入った。走行車両はまだ少ない。

朝夕の復興作業従事者の車両が大半と思われる。



横川ダム



原浪トンネル



トンネル入り口
1.503μSv/h

南相馬市「横川ダム」橋から左山腹に
「原浪トンネル」



原浪トンネルを出ると浪江町「帰還困難区域」
警備員常駐



国道 114 号線方向を示す看板



室原地区設置看板



この先双葉町方面 通行禁止



114 号線でも川添地区は →
「避難指示解除区域」
道路沿いの豪壮な屋敷
リフォームして帰還の選択?

← 国道 114 号線沿い
室原地区「帰還困難区域」屋敷
当時のまま



《参考資料》

(その1)

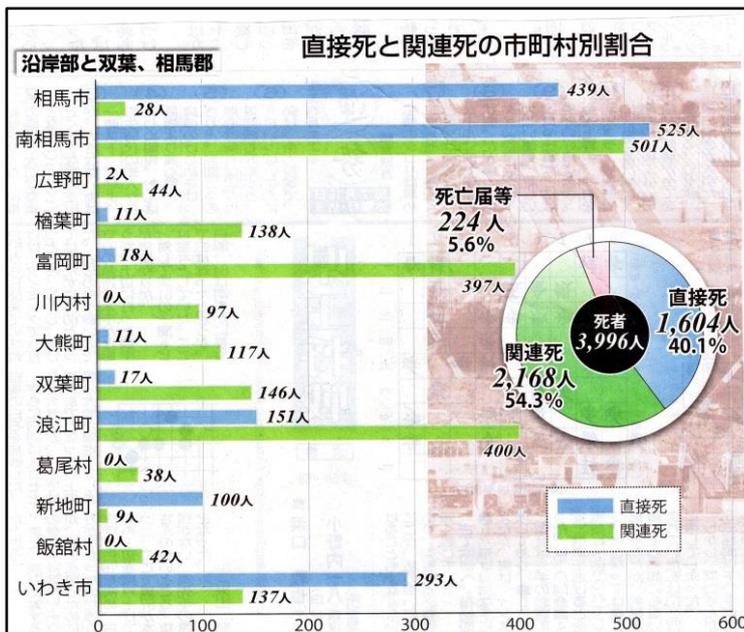


(その3)



平成 29 年 9 月 30 日

(その2)



原発事故関連死 2,000 人超え 直接死を上回る

(その4)

中間貯蔵施設搬入実績 (2017年8月末)	搬入先: 大熊工区		搬入先: 双葉工区	
	搬出市町村	搬入量 (立方メートル)	搬出市町村	搬入量 (立方メートル)
浜通り	いわき市	3,285	相馬市	668
	大熊町	21,086	南相馬市	569
	富岡町	18,615	新地町	842
	楢葉町	7,751	浪江町	8,946
	広野町	492	双葉町	12,496
	川内村	424	飯館村	17,043
	郡山市	13,319	葛尾村	684
	白河市	6,000	伊達市	3,850
	田村市	5,449	二本松市	21,983
	棚倉町	3,231	福島市	1,206
中通り	三春町	2,052	本宮市	4,829
	天栄村	941	川俣町	1,674
	西郷村	8,728	桑折町	6,184
	計	91,373	計	80,974

除染廃棄物搬入量は 8 月末で目標の 34.5%。前年度比の 3 倍を目指す

☆ その1は経済産業省HP, 2~4の資料は福島民報「震災・原発6年6か月」より

『あとがき』

「震災・原発事故を伝える・・・2011.3.11 から 6 年 6 か月」ファイルが、出来上がりました。6 か月毎に記録を作成しています。このファイルが、一人でも多くの方々の目に留まることを願っています。

毎回、編集をして下さるNPO法人環境カウンセラー千葉県協議会 倉田智子さんと、現場取材に同行、撮影協力をして下さる(公社)福島県建築士会相馬支部 岩橋光善さん、原美幸さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。